

ながいずみクチコミガイド⑦
愛鷹山と長泉町



長泉町の3/4は
愛鷹山なんだ!

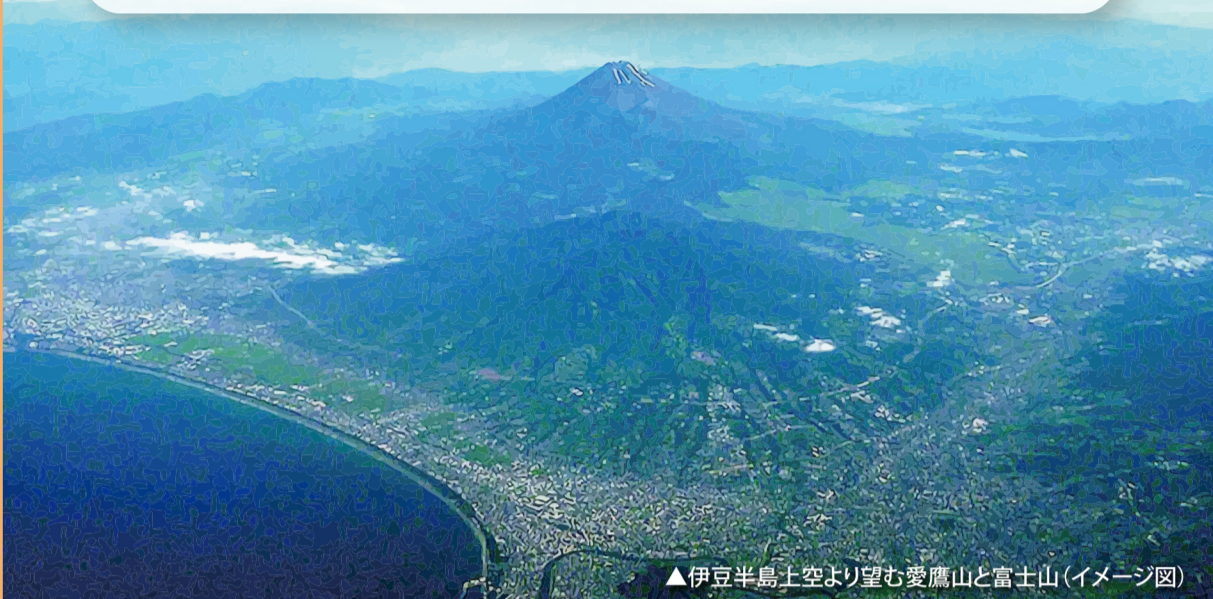
Enjoy!
 Naqizumi
 Sampo

発行 ながいずみ観光交流協会

■お問い合わせ

ながいずみ観光交流協会 (伊豆半島ジオパーク 長泉ビジターセンター)
 〒411-0943 静岡県駿東郡長泉町下土狩1283-11 コミュニティながいずみ2F
 TEL.055-988-8780 ■9:00~17:00 ■月曜定休

■写真・資料提供: 沼津市明治史料館・後藤 治彦・加藤 光彦・鈴木 務 ■参考資料: 裾野・長泉の伝説



▲伊豆半島上空より望む愛鷹山と富士山(イメージ図)

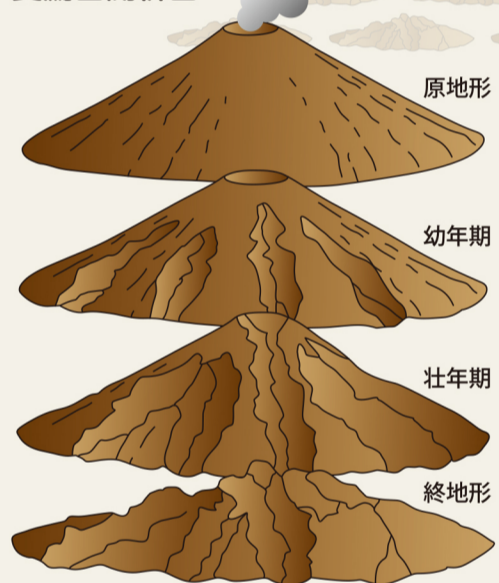
長泉町の3/4を占める愛鷹山地

愛鷹山地は、長泉町の3/4を占め、愛鷹山・位牌岳から、桃沢川や梅の木沢川の川筋を含む長大な緩斜面となっています。箱根山地を源とする黄瀬川から東は、富士山の噴火による溶岩扇状地で、上土狩地区から竹原地区にかけ、僅かな斜面となっていて、竹原地区から清水町、三島市を含む海底堆積物の沖積平野に連なっています。なお、町域の標高差は約1,380mです。

クチコミ
 その1 **愛鷹山は、かつて富士山同様の形をしていた**

富士山と駿河湾の間にそびえる愛鷹連峰。最高峰は、1504mの越前岳。愛鷹山は、かつて富士山と同様に、成層火山の典型的な形をしていましたが、開析が進み現在の形になったとされています。

愛鷹山開析図



9つの山頂(黒岳、越前岳、呼子岳、鋸岳、位牌岳、前岳、袴腰岳、大岳、愛鷹山)があり、一等三角点(見晴らしの良い場所に設置)を有するため、全国各地から、山岳マニアが訪れる山でもあります。

クチコミ
 その2 **古くは足高山と呼ばれた「富士の三足」の1つ**

標高800メートル以上の地域では、アシタカツツジなどの植物が生育。また、環境省の特定植物群落のブナの原生林が見られ、季節によってヤマボウシやトリカブトが咲き登山者に人気です。

富士山を中心に、愛鷹(足高)山、山梨県の足和田山、箱根の足柄山を「富士の三足」という言葉があります。三足は鼎(かなえ)の足のごとく高山富士を3方から支えているような姿を表しています。



▲清水区薩埵峠からの愛鷹山(イメージ図)



▲歌川広重の「東海道五十三次・原」の愛鷹山



▲箱根山からの愛鷹山(イメージ図)

クチコミ
 その3 **紫色で星形の花が咲き誇る「イワタバコ」の群生地**

愛鷹山のイワタバコは、水の滴る、垂直に切り立った岩壁に着生しています。例年7月の第一週の間、約一週間くらいの間、群生しているイワタバコを見ることが出来ます。紫色で星形の花たちが咲き誇る姿は、なんとも素敵な光景です。



クチコミ
 その4 **自然の営みを感じられる「倒木の森」**

台風や落雷などの自然災害により、森は死に絶えるのではなく、暗い森林に明るい光が差し込み、新たな木が育ち世代交代を繰り返しながら森が受け継がれていく…。ここ「倒木の森」は、そんな自然の営みを感じられる場所です。



クチコミ
 その5 **むかし、愛鷹山中で、馬の放牧場があった!!**

愛鷹山には野生馬が数多く生息しており、寛政8年(1796)に江戸幕府によって牧が整備されました。牧は愛鷹三牧(霞野牧、元野牧、尾上牧)と呼ばれ、続いて尾上新牧も作られました。最初の三牧はすべて尾根の上であり、尾根上に放牧場を持っていましたが、尾上新牧だけは桃沢側の流れる谷間(現在の元長窪・御長屋地区)に作られました。

実は、この尾上新牧の放牧場が、位牌岳の南に広がる、本来の馬場平だったようです。現在の馬場平は、馬場としては地形的に険しい場所があり、馬を移動させる苦勞の割には広くないため、馬場として有用では無かったようです。本来の馬場平は、位牌岳の南から五輪塔あたりまでのなだらかな地形にあり、漏斗状だったため、細い尾根に馬を追い込みやすかったようです。

馬を下ろすときは、現在の登山道を使い桃沢川沿いに牧まで馬を下ろしたそうです。

尾上新牧跡地の碑▶
 元長窪・御長屋地先



▲駿州愛鷹牧捕獲馬之図(世古直登氏所蔵)



▲愛鷹四牧絵図(加藤光彦氏所蔵)



長泉からの愛鷹山地と富士山の素晴らしい眺望

愛鷹山(1188m)

袴腰岳(1248m)

位牌岳(1458m)

富士山(3776m)

前岳(1336m)

つるべ落としの滝(920m)▶

▶宝永山(2693m)

水神社(550m)▶

▲池の平(846m)





愛鷹山地の絶景を是非ご体感ください！

黒岳山頂の日の出

位牌岳のトリカブト

池の平展望公園

位牌岳頂上からの長窪地区

ジンジソウ

冬化粧の愛鷹山脈

紅葉の鋸岳

Ashitakayama



長泉町ふるさとカルタより

幻の滝
滝と呼ばれし
つるべ落としの滝

つるべ落としの滝の東側に幻の滝があった？

つるべ落としの滝は、渇水期に水がなくなることから「幻の滝」とも呼ばれるとされていましたが、この度、つるべ落としの滝の東側に「幻の滝」があることが判明。ここはつるべ落としの滝よりも水量が少なく、滅多に見ることのできない滝、まさに「幻の滝」の名にふさわしい滝です。



つるべ落としの滝



▲幻の滝



ミヤマカラスアゲハ

※上記マップには、登山道の記載はありません。
 ※長泉町の愛鷹山ハイキングに関しては、「ハイキングガイドながいずみ」(長泉町産業振興課発行)をご参照ください。
 ※長泉ふるさとカルタを説明する「カルタ君」は、ながいずみ観光交流協会のホームページでご覧になれます。

登山者のランドマーク「五輪の塔」

標高約930mの山中にあるこの不思議な「五輪の塔」。言い伝えでは、「かつて裏街道だったこの地で、遭難死した身分の高い上臈(婦人)」を悼み、墓と五輪の塔が建立されたとあります。墓は自然災害によって流失してしまい、現在は「五輪の塔」だけが残っています。

一説によると、武田信玄が駿河の国を攻めていた際、信玄に差し入れをと現在の富士市中里村からこの女性が登って来て遭難したという説もあるようです。

今では愛鷹山登山者のランドマーク、またはパワースポットとして親しまれています。



冬の五輪の塔

池の平のへび伝説

昔、元長窪に村があり、谷あいには大きな池がありました。日照りが続いても池の水は涸れることなく、村人は祠を建て神さまを祀っていました。その祠に一匹の蛇が住み着いたところ、村は豊作になり、病気も減りました。蛇を池の神さまのお使いとして感謝していました。

ある日、村の木こりが蛇に噛みつかれ、怒った彼は蛇を斬りつけてしまいます。すると突然黒雲が押し寄せ、雷が鳴り響き、池の水が真っ赤に染まりました。村人が様子を見に来ると池は枯れており、木こりも見当たりません。後日木こりそっくりの石が見つかり、祟を恐れた村人は全員村を去ってしまいました。のちに人々はこの池のあたりを「池の平」と呼ぶようになったといえます。



現在の池の平の湿地

長泉最強のパワースポット「愛鷹山水神社」

桃沢川の源流にあり、龍神をまつる神社。明治36年に建立し、山奥にありながら、海洋渡航者や漁師などから水難の守護として信仰を集めています。源流から流れる水は、静岡県内の湧き水100選にも選ばれており、汲み持ち帰る事ができます。



愛鷹山水神社



イワタバコの花

イワタバコとカルタ君

紫と赤のツツジの競演

険しい山道

トウゴクミツバツツジ

長泉町標高最高地点

険しい山道に忽然と現れる癒やしの空間



つるべ落としの滝